

一音一音の響き 生音で

ビーズ (beads) の語源は英語の古語 bead (折り) だそうです。糸通し穴がある、個性的な飾り玉で、折りにも用いられましたので、かつては世界の重要な交易品でした。

三味線も大陸から交易品として入ってきた3弦楽器で、先人の工夫、改良で現在の形になりました。重要なのは、大陸の3弦楽器にはない「さわり」という装置を加えたことです。

三味線では、一番低音の弦が振動して「さわり山」に触れ微妙な響きや余韻が出ます。純粋な音の高さだけでなく、

三味線

の
流儀

本條秀太郎

②

各音ごとに個性や主張が表れます。このようにして自然倍音を駆使するハーモニ

ー楽器である

三味線は、まるで糸を通した時の美しいビーズ飾りです。

6月14日に東京都新宿区の近江楽堂で「Beads Vol.2」音の折り」と題し、世界初演となる高橋悠治作曲「花筐」などの三味線現代曲の演奏会をします。また、声・三味線の曲「偏愛」も初演します。太宰治とともに入水した女性をテーマに寺山修司が書いた詩に、私が曲をつけました。

ビーズの一粒一粒の美しさに重ね合わせて一音一音の限らない響きを生音で表現したいと思います。三味線の辿ってきた世界を感じ取っていただけばうれしいです。

(三味線演奏家・作曲家)